

2026年2月12日

星に願いを ～多摩からウクライナの星空へ～

昨日11日(日)は、学校近くの多摩市地域交流施設ひじり館ホールで開催(青少協連光寺・聖ヶ丘地区委員会主催)された「多摩の空からウクライナを思い浮かべる星空投映会」に出かけた来ました。

最初にウクライナ語の簡単な会話、言葉の紹介があり、参加者で復誦しました。続いて、府中市郷土の森博物館などでプラネタリウム解説員をなさっている田中 真理さん(本校卒業生の母親)による「多摩から見える冬の星空」について解説をいただきました。

この季節、一等星をはじめ多くの明るい星々が観察でき、星座の由来などについてお話をいただきました。なお、田中さんは毎年、本校中学3年生がニュージーランド修学旅

行の事前研修として「南半球の星空観察」について府中のプラネタリウムでお世話になっている方です。

続いて、4年前のクライナ紛争による戦禍を逃れ、日本に避難しているハルキウ *Харків* 出身のプラネタリウム解説員オレナ=ゼムリヤ チェンコさんから日本の星座との違いや比較を踏まえ、北緯50度から見える星空や太陽系の惑星、銀河などについて説明がありました。北極星を見上げる高度は、その土地の緯度と同じ(数学の相似を使えばわかりますね)で、多摩市では約36度、キーウでは約50度ということを学びました。北極星や星座の見える位置の違い、星座の成り立ちなど、とても興味深い内容でした。通訳は、一橋大学大学院生でキーウ *Київ* 出身のヤンナ=ドゥブニコバさんが流暢な日本語で務めました。同時に手話通訳もあり、配慮に充ちた講演会でした。

5分の休憩をはさんで後半は、ウクライナの現状についてオレナさんとヤンナさんから、普段テレビや You Tube などでも紹介されることの少ないキーウとハルキウの現状と文化について、個人的な



写真や情報を交えて説明がありました。オレナさんからは、人口 130万人を抱えるハルキウの街が空爆と寒さ・停電により地下化している商店や学校などの様子を教えていただきました。ヤンナさんはウクライナを代表する伝統柄刺繡ヴィシヴァンカのブラウスでした。また、聖蹟桜ヶ丘駅周辺に降り立った時に目に飛び込んで来たマロニエの木（ウクライナ語でカシュタン каштан）を見て、ウクライナを思い出し、涙したそうです。こうしてウクライナと多摩に共通する点について語りつつ講演は進みました。こうした中、夢と希望を子ども達に与えようと色づけした氷で作られたカマクラなども紹介され、少しだけ心が和みました。

ともあれ、オレナさんは宇宙から見た地球には国境線がないことを引き合いに出しながら、それぞれの民族が争うことなく平和に過ごせる世の中の到来を切に願うことを、星空を眺めながら願っていると私たちに呼びかけました。そして、お別れの前にウクライナの愛



赤いカリーナ

国歌『赤いカリーナは草原に Ой, у лузі червона калина』を動画で紹介されて締め括りとなりました。この歌は、ウクライナの「第二の国歌」と言われ、ロシアに侵略された約 100 年前から歌われ始められるようになったそうです。真っ青な空の下、黄色に稔る小麦畑を象徴するウクライナ国旗、その畑の端にうなだれるように実っている小さな赤いカリーナの実…。今では、赤いカリーナ(ガマズミ)の歌が抵抗と団結のシンボルとなっているそうです。

ウクライナでは、「赤い糸」は主に悪魔や災いから身を守るため、手首に巻くお守りとしての風習があるそうですが、多摩の星空の向こうに赤い糸で結ばれたウクライナの人々へ平和が訪れますよう、星に願いを込めて応援のエールを送りたいと思います。

蛇足ですが、校舎入り口にも 4 年前からウクライナへの応援を込めて黄と青のテープでデザインした模様を飾っています。また、1 月 23 日付の「校長ブログ」で学校近郊から見える冬の星空について紹介しております。ご笑覧ください。

石飛 一吉